Ⅴ　No3　卒業生インタビュー調査

Ⅴ-５　22名の卒業生のインタビューまとめ

1 海外ボランティアで無力さを痛感したことが原動力に

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

1年生のとき、ボランティア部で被災地研修などの東日本大震災に関する活動をしていました。また2年生では、個人的にカンボジアでの子どもと関わるボランティアに参加しました。帰国当初は活動に満足感を覚えていたのですが、次第に**自分は結局その子どもたちの状況を何も改善できていなかったのではないか**、という無力さを感じるようになりました。そこで、自分にできる支援とは何かを考え、SGHの活動の一環として、カンボジアの子どもたちに向けた学習冊子を作成し、現地に贈るという取組を行いました。この国内外での経験を通じて、実際に**自分の目で現場を見ることの重要性**を感じるとともに、特に**国際協力について専門的に学びたい**という気持ちが強くなりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

上記の通り、高校時代に関心をもったことをきっかけに、現在は大学で国際関係論や地域研究を専攻しています。また、大学でも様々な海外ボランティアに参加しています。特に印象的だったのはミャンマーでの短期医療ボランティアです。それまで医療に関わった経験はなく、はじめは何もできることがなかったのですが、自分なりに問診や体温測定などできることを探していきました。このように、**自分から積極的にチャレンジしてみようと思えるようになったのは、SGHでの学びがあったから**だと思います。

■これからのグローバル教育への期待

海外に対して関心を持つことも重要ですが、日本国内にも多くの課題が山積しているため、**海外・国内の両面に目を向けられるような教育内容**となると、より広い視野を持てるようになるのではないかと思います。

はしもと　かおる
橋本　薫さん

㉖お茶の水女子大学附属高等学校
2017年度卒

Profile

海外研修プログラムに興味を持ち、お茶の水女子大学附属高等学校に進学。高校卒業後、上智大学総合グローバル学部に進学。国際関係論や地域研究などを学んでいる。海外でのボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。

後輩へのメッセージ

一見すると海外ボランティアという大きなことをしているようですが、そこで何か確かなものを得たわけではなく、日々の生活での身近な出来事を通して考え方も変わっていっています。COVID-19の影響でなかなか思うように動くことができない状況ですが、様々な人と関わり、実際に足を運び見聞きすることで、自分の世界が広がっていくので、自分のやり方でやりたいことを後悔のないようにやってほしいと思います。

MUFG

2 サステナビリティのおもしろさを多くの人に伝えたい

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校1年生のときに聞いたあるアパレルメーカーの方の講演を通じて、**身近な服が環境に悪影響を及ぼしうるということを知り、衝撃を受けました**。そこから「服と環境問題」（エシカルファッション）のテーマに関心を持ち、2年生の探究活動のテーマに設定し、活動の一環で**この問題を多くの人に知ってもらうためにウェブサイトの作成に取り組みました**。ウェブサイトに掲載する情報の正しさを確認する中で、これまで特に疑っていなかったインターネット上の情報の不確かさに気がつき、**自身の情報リテラシーを高めることにもつながりました**。作成したウェブサイトを全国中学高校Webコンテストに応募したところ、発想の新しさが評価され、経済産業大臣省の受賞に至りました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

高校での経験から、服だけにとどまらず、サステナビリティ全般に関心を持ち、本格的に学ぶためUCSDに留学しました。そこでは新たに、持続可能な「食」の課題を痛感し、帰国後にこの問題を広く伝えるために自分でも何か取り組みたいと思っていたところ、同じ課題意識を持った友人と意気投合し、茶色くなったバナナでケーキを作り、カフェで販売するというプロジェクトを企画・実施しました。**「サステナビリティのおもしろさを身近に感じてほしい」という思いで始めたこの活動を通じて、新たな出会いがあったり、多くの人が楽しみながら参加や実践をしてくれたことが、とてもうれしかった**です。

■これからのグローバル教育への期待

他校と連携する機会がもっとあると良かったと思います。その際、普通科の高校だけではなく、農業高校や商業高校など**多様な高校の生徒と交流することで、より視野が広がる**のではないかと思います。

なかだい　ちさと

中臺　千智さん

㉖お茶の水女子大学附属高等学校
2016年度卒

Profile

SGH1期生として、お茶の水女子大学附属高等学校に進学。高校卒業後、早稲田大学政治経済学部に進学。SGHの活動を通じてエシカルファッションやサステナビリティに関心を持ち、大学では環境経済学を専攻している。

後輩へのメッセージ

どんなきっかけでもチャレンジを積み重ねれば、いつか自信になると思います！無駄なことは一つもなくて、必ず役に立ちます！
私もまだまだ挑戦の途中ですが、一緒にワクワクする世界をつくっていけたらうれしいです！

MUFG

3 タイの少数民族との交流を通じ、言葉のもつ力を実感

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生のときに、タイのカレン族という少数民族の村でホームステイをしたことがとても印象に残っています。日本語はもちろん、英語もタイ語も伝わらないという状況で、コミュニケーションに苦戦していました。そうした中、カレン族の小さな子が日本語に興味を持ってくれたことをきっかけに、「あいうえお」の書き方を教えるなどのコミュニケーションが生まれ、その子との関係が少し近づいたように感じました。この経験から、**言葉は人と人とをつなぐ重要な手段である**と感じ、**将来は日本語教員として、日本語を介して海外の人々と日本人とをつなぐような仕事がしたい**と思うようになりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

タイでのホームステイや、ロンドン大学での研修など、SGHでの様々な経験を通じて、**何事もチャンスだととらえ、前向きに取り組むことができる**ようになりました。大学では学科でフリーペーパーを作るという活動に参加をしているのですが、声をかけられた当初は、少し面倒だなという気持ちもありました。しかし、声をかけてもらえたのも何かのチャンスと考え挑戦してみると、企画やインタビューのスキルが身につき、自身の成長につながりました。SGHの経験が活きたと思う瞬間でした。この他、海外研修を通じて、**わからないことがあれば主体的に聞きに行く**、という姿勢も身につき、大学生活では主体性や積極性を評価される場面もあります。

■これからのグローバル教育への期待

SGH指定校同士の交流について、全国大会といったイベントだけでなく、より日常的な仕組みになると、指定校同士で互いにアドバイスをし合うなど、活動の視野が広がるのではないかと思います。

にわの　ふうか

庭野　風花さん

㉖佼成学園女子中学高等学校
2018年度卒

Profile

中学時代から英語が好きで、海外フィールドワークに参加したいと考え、佼成学園女子中学高等学校に入学。高校卒業後、東京学芸大学教育学部に進学。国語教育を専門に学んでおり、将来は海外で日本語教員になることを目指している。

後輩へのメッセージ

皆さんはじめまして。昨年度SGHを卒業した庭野風花と申します。私からお伝えしたいことは、大人にはできない柔軟な発想で課題解決に取り組んでほしいということです。たかが高校生ですがされど高校生、皆さんの素晴らしい研究で今後の世界が変わることをとても楽しみにしています。

MUFG

4 フィールドワークで仮説が崩れたことで、より深い学びへ

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

タイでのフィールドワークとロンドン大学での論文指導は、自分にとって非常に大きなものでした。タイの少数民族であるカレン族の言語が失われつつあることを知り、当初はグローバリズムのもとで英語に圧迫されていることが原因ではないかという仮説を持って現地を訪問しました。すると、**実際にはカレン族の言語が英語ではなくタイ語に圧迫されているということがわかり、仮説は崩れたものの、そこからタイの少数民族に対する政策について、国際法の視点から研究をより深めていきました。**さらにロンドン大学では、専門性の高い教員から指導を受けながら、多くの英語文献を調べ直し、研究を深めました。大変でしたが**リサーチ力は大きく向上しました。**最終成果をSGH全国高校生フォーラムで発表したところ、最優秀賞を獲得することができました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

大学では、学部の授業に加えて、国際法研究会というサークルに入り、模擬裁判などに取り組んでいます。活動の中で、**英語によるリサーチや弁論をする機会があり、SGHでの学びを活かせていると感じます。**もともと国際法全般に関心がありましたが、サークルでの活動を通じて、人道支援の側面により関心をもつようになりました。将来は、海外大学院でさらに国際法を専門的に学んだ上で、国連職員など、国際問題に取り組める職業に就きたいと考えています。

■これからのグローバル教育への期待

高校での授業と比べると、大学の英語の授業はディスカッションの機会が少なく、やや物足りなく感じます。SGHで行われているような英語を用いたディスカッションやプレゼンテーションの授業が、大学にもより広がっていくとよいのではないでしょうか。

とくひさ　あいか
徳久　愛華さん

㉖佼成学園女子中学高等学校
2018年度卒

Profile

英語教育に力を入れていることに魅力を感じ、佼成学園女子中学高等学校へ進学。SGHの活動を通じて国際法に関心を持ち、高校卒業後は早稲田大学法学部に進学。今後は、海外の大学院に進学し、さらに国際法の学びを深めたいと考えている。

後輩へのメッセージ

高校の時にSGコースに入ったことで、色々な経験ができ、これからも学びたいことや将来の夢が見つかりました。
みなさんも好奇心を持って、失敗を恐れずにたくさんのチャレンジをしてみてください。きっとあなただけの発見や感動、そして夢がたくさん見つかると思います！

MUFG

5 「濃い」クラスメイトとの切磋琢磨で更なる高みへ

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校1年生の最初のころは英語を使って人前で話すことに自信がなく、原稿を暗記することで精一杯でしたが、SGH授業の一つである**オールイングリッシュの授業によって特に英語力が伸びました**し、人前で臨機応変に自身の意見を述べられる力がつきました。3年生での他国の方とディスカッションするイベントでは、司会やプレゼンなど人前で英語を発表する機会を得られました。

授業だけでなく、**アグレッシブな「濃い」クラスメイトが揃っている環境**も自身を変えた要因の一つです。前向きで、グローバルな視点を持つ仲間がいたことで、切磋琢磨できました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

SGHで培われた、自身の英語力・プレゼン力への自信と、グローバルな課題に着目し解決策を考える姿勢を活かし、大学でもニューヨークの国連本部に研修に行くなど、国際活動の幅を広げています。大学2年生のときには元葺合高校のメンバーで全国学生英語プレゼンテーションコンテストに出場し、チームワークとプレゼン力が評価され文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞することが出来ました。**「一つの問題をあらゆる視点で見ることが必要」というSGH時代の教えに倣って**創り上げたプレゼンが評価されたことで、自信につながりました。

■これからのグローバル教育への期待

海外フィールドワークに行ける生徒が限られていましたが、現場に足を運んで、問題に直に触れ合うことは重要だと思います。海外はもちろん、国内でのフィールドワークの機会でも良いので、問題を直接見ることが出来る機会が増えることを期待しています。

奥（おく） はんなさん

㉖神戸市立葺合高等学校
2016年度卒

Profile

葺合高校の英語の授業の充実度に惹かれ国際科を志望し、進学。高校卒業後、英語での発信力育成を目指し、SGUである上智大学国際教養学部　国際教養学科に進学。現在は就職に向け、英語力以外の強みを身につけるため新たな専門分野への挑戦中。

後輩へのメッセージ

課題研究という正解のない問題に対して、受け身の姿勢ではなく主体的に取り組んでほしいです。
文献やインターネットの情報だけでなく、フィールドワークやインタビュー等を通して情報を収集することで新たな発見があります。
是非、仲間と楽しみながら自分の興味のあるテーマを掘り下げてください。

MUFG

6 探究したいテーマの拡がりを強みにジャーナリズムを志向

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生まで英語には引け目を感じていましたが、ひょうご・こうべワールド・ミーツ for YOUTHなど数々のイベントにプレゼンター、パネリストとして登壇することを経て、人との縁の拡がりとともに、人前で英語を話すことの経験値を積むことが出来ました。

また多様な経験から、**1つのテーマだけを探究するのではなく、探究したいことを柔軟に拡げていけることが自身の強みだと感じるようになりました。**自身の探究テーマが時々によって変わることについて先生方も十分理解をしてくださり、「コロコロ変えるな」という指示ではなく、私の時々の関心に沿った書籍を紹介してくれたり、外部有識者に繋いでくれたことが、探究の支えになりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

時々で興味のあることを変えて探究できることが自身の強みと感じるようになってから、個別の課題ではなく、社会全体にアプローチしたいと思い、ジャーナリズムに関心を持つようになりました。その思いは大学生になっても変わらず、大学2年生の後期にはメディア論を学ぶためイギリスのケント大学に交換留学（半年）に行くことが出来ました。SGH時代のオールイングリッシュの授業の経験から、**イギリスでの授業でも英語で困ることはほとんどありませんでした。**

■これからのグローバル教育への期待

SGHの事業が5年で終わってしまうのは、とても残念だと思います。**SGHで生まれたネットワークを6年目からもきちんと継承できるよう設計される事業であってほしい**です。また、連携機関について、教育機関だけでなく企業とも一層連携できると、高校生がビジネスやマーケティングに関心を持てるのでは、と思います。

こばやし　はな
小林　華さん

㉖神戸市立葺合高等学校
2017年度卒

Profile

葺合高校の英語プログラムの充実度やSGHの取組に惹かれ進学。高校卒業後、在学4年で留学ができる神戸大学国際人間学部に進学し、社会学、メディア論を学んでいる。現在は社会分断を繋ぐメディアの役割の研究や、繋ぐ場づくりを志向。

後輩へのメッセージ

高校三年間で立派に何かを成し遂げられることは多くはないかもしれませんが、その先に向けて学べることは多くあります。高校生の時の私のモットーは、「とにかくなんでもやってみる」でした。遠回りで曲がりくねった道でしたが、それが今の自分を形作り、日々の原動力となっています。ぜひ駆け足で、自分の興味関心の赴くままに沢山の学びのチャンスを掴み取ってください。

MUFG

7 海外研修で直に感じた問題意識から、海外大学へ

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生の夏に**スウェーデンでの短期研修に行ったことがターニングポイント**だったと思います。社会福祉政策やジェンダーギャップへのアプローチが先進している福祉国家との出会いは、自身にとって大きなインパクトがあり、高校時代の一貫した探究テーマに繋がりました。また、**研修を通じて海外にネットワークができたことも大きく、**帰国後にスウェーデンの友人に追加調査をするなど、その後の探究活動で活かすことができました。海外の現状を直に確認できたことで、国内のスウェーデンに関する研究者にもさらに深くアプローチするなど、探究にアクセルがかかったように思います。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

海外大学で授業を受けるに当たっての「常識を与えてくれた」のがSGHの授業です。日本のメディアではなかなか報道されない、多様な国際課題を授業テーマとして扱ってくださっていたので、SGH時代から自身の関心に近いことで、かつ、国際的な課題を身近に感じていました。こういった授業は大学の学びの準備に繋がったな、と感じます。また、大学ではエッセイの論理性も評価されており、SGHでの英語論文授業の経験が活きているように思います。

■これからのグローバル教育への期待

SGHで学んでいても、海外大学に進学する生徒はまだまだ少ないのが現状だと思います。実際に海外大学に進学した学生や、海外の企業で活躍する社会人などをSGHのプログラム内で紹介できると、そうした進路がより身近なものに感じられるのではないでしょうか。

やまくま　えりこ
山隈　恵里子さん

㉖神戸市立葺合高等学校
2018年度卒

Profile

葺合高校の国際科の歴史やSGHの取組に惹かれ進学。SGHで国内の課題も日本だけでは解決できないとの問題意識から、社会学の先進であるカリフォルニア大学のバークレー校に進学。現在は社会学専攻に向けて勉強中。将来は海外でジャーナリストになりたいと考えている。

後輩へのメッセージ

高校で国際問題について考えることは、批判的思考力を養うだけでなく、これからの視野を大きく広げてくれます。
英語をツールとして、研究だけでなくぜひ自らの進路もグローバルなスケールで考えてみてください！

MUFG

8 高校生だからできることを考え、ビジネスプランをアクションへ

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

バングラデシュの特産品と教育整備を結びつける**ビジネスプランを考え、実践に移す**という経験ができたことです。両親がバングラデシュの出身で、幼い頃からバングラデシュの発展に貢献したいと思っていました。高校では、そのためのヒントを得たいと思っていましたが、**先生から、将来ではなく、高校生の今だからこそできることもあるのではないかといわれ、はっとしました**。そこで、高校のインドネシア研修で学んだ特産品を活用したビジネスモデルを応用し、バングラデシュの特産である衣類に着目してオリジナルのエシカル商品を作り、その収益を教育に寄付するというプランを考えました。実践に移したところ、10万円程度の利益を上げることができました。こうした経験を通じて、**ミクロな現場で国際協力をしたいという自分の問題関心を明確にする**ことができました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

大学では国際協力に関する新しい知識を数多く学んでいますが、**高校時代に国際問題などに関する土台となる知識をしっかりと身につけていたことで、それほど苦労せずに授業についていくことができ、自信をつけています**。また、オリジナルのエシカル商品を販売する取組は現在も継続しており、国際協力サークルのメンバーの協力を得ながら活動の幅を広げています。将来は、開発コンサルタントとして日本とバングラデシュの架け橋になるような仕事がしたいと考えています。

■これからのグローバル教育への期待

実際にビジネスプランを実行に移す上では資金面がボトルネックとなりました。**実行段階でコンペなどによる資金援助などがあると、より活動の幅が広がると思います。**計画立案だけでなく実行することによって得られる学びは非常に大きなものでした。

ザーマン　モハ　ノエルさん

㉖筑波大学附属坂戸高等学校
2017年度卒

Profile

両親がバングラデシュの出身で、自分もバングラデシュに貢献したいと思い、東南アジア諸国との連携を重視している坂戸高校に進学。高校卒業後は、横浜市立大学国際総合科学部に進学し、ミクロな視点から国際協力について研究している。

後輩へのメッセージ

私は高校に入学をしてから、SGHのカリキュラムを通して、様々な経験をしてきたことにより、それまで漠然と思い描いていた夢を、具体的に行動に移すことができ、今も活動を続けることができています。皆さんも高校生の段階で夢を見つけ、具体化できるように様々なプログラムに積極的に参加してみてください。

MUFG

9 「ありがた迷惑」にならない支援の在り方を模索する

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

もっとも印象的なのはインドネシアでのフィールドワークです。事前準備として様々な授業を受ける中で、発展途上国の森林保護支援への関心がどんどん高まりました。しかし、実際に行ってみると、**現地の住民から、「日本企業の支援には上から目線を感じる」という言葉を聞き、現場のニーズをふまえない支援はありがた迷惑にもなりうるということを感じました。**この経験を通じて、事前準備に加え、実際に現場に行って実態を把握することの重要性を痛感し、そうしたニーズをふまえたうえで発展途上国の課題を解決するためのソーシャルビジネスに取り組んでみたい、という思いが強くなりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

大学入学後に参加したセミナーで、自身の高校時代の取組を話したところ、国際機関で働いている方が興味をもってくれ、アメリカでの研修に誘ってくれ参加したということがありました。高校での取組の積み重ねが、新たなチャンスにつながったと感じました。また、大学では留学生と英語のみで交流するスペースがあり、英語力をキープするためにも積極的に参加しています。**100%英語が聴き取れなくても、とりあえず交流してみよう、というマインドをもてるのは、SGHでの成功体験があるから**だと思います。

■これからのグローバル教育への期待

全国のSGH指定校が集まり交流するシンポジウムはあったものの、それぞれの高校の活動成果報告などがメインでした。半年から１年ほどの長期的なスパンで、他校のSGHの高校生と協働プログラムを行うと、お互いに刺激を受けながら、より良い学びになると考えます。

はつで　かずゆき

発出　和志さん

㉖筑波大学附属坂戸高等学校
2017年度卒

Profile

英語力を高めるため、海外研修の機会が充実した本校に進学。SGHでの経験を通じて発展途上国の課題をビジネスで解決することに関心を持ち、卒業後は武蔵大学経済学部に進学。積極的に海外研修等に参加し、英語のスキルも磨いている。

後輩へのメッセージ

「私達にできること」と**「私にできること」**を考えることが大事だと思います。集団だから成せることもありますが、それと同じように「私個人だからできること」もあると思います。双方をバランスよく追求することが自分の成長につながると思います。
また、高校生の間に何事にもかえがたい**「経験」**をたくさんしてほしいです。

MUFG

10 国際課題の解決が進まない「モヤモヤ」から生まれる探究

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

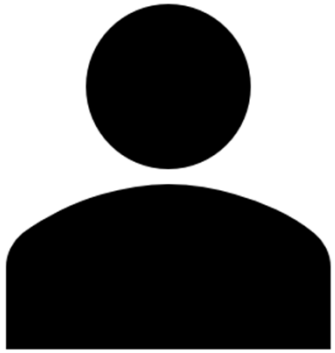
振り返れば、高校1年生のフィールドトリップで公益団体や行政に視察に行った際に**マルチアクターが力を合わせ課題解決に至ることの難しさに「モヤモヤ」を感じた**ことがきっかけです。モヤモヤを胸に紛争解決や武装解除を探究テーマにカンボジアに4週間の医療ボランティアに行きました。カンボジアに行っても、問題解決が容易でない現状を目の当たりにし、ますますモヤモヤを抱えましたが、学校の教員（メンター）や連携校の大学教授からの伴走指導により、試行錯誤を重ね、自分の考える持続可能な国際支援の在り方を模索しました。集大成として参加したSGH甲子園でのプレゼンテーションでは、日本語プレゼンテーションでの最優秀賞を獲得できました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

モヤモヤも含め、**自分が「なぜ」そのような感覚を持つのかを熟考し、探究し、新たな知に繋げていくというプロセスはSGHで学んだ**と言えると思います。大学ではトビタテ！留学JAPANの制度を活用してスウェーデンに1年間留学し、平和と開発に関するテーマを専攻しました。大学での高度な学問との出会いによって、武装解除や直接的な暴力行為だけでなく、文化に根差した構造的な課題や、差別意識なども含めて社会課題を解決していきたいと思っています。

■これからのグローバル教育への期待

国際課題に関心を持った同世代との緩やかな繋がりの場があるといいなと思います。自身とは違うバックグラウンドや課題意識を持つ同世代に、「何かしたい！聞きたい！」と思ったときに声を掛けられるSNSの繋がりなどがあるといいですね。



とみやま
富山　ももさん

㉗関西学院千里国際高等部
2018年度卒

Profile

「自分で考える学びが中心」であることに魅力を感じ、関西学院千里国際中等部・高等部に進学。高校卒業後、引き続き平和学について学ぶべく立命館大学国際関係学部に進学。現在はスウェーデン留学の学びも活かし、平和学を専攻できる大学院への進学を検討中。

後輩へのメッセージ

たくさんの研究と知見を使って世の中をよくできるかもしれない、勉強はそのためにあるのだと私はSGHを通して学ぶことができました。みなさんがこれまで小学校・中学校・高校で得てきた知識が点とするなら、その点と点をつなげて自分で新しい知見を生み出すプロセスがリサーチ研究だと思います。この正しい情報を集めて、「知る」を深める経験は必ず将来に役に立ちます、楽しみながら頑張ってください！

MUFG

11 被災地ボランティアを通じ、現地を訪れる重要性を痛感

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校1年生のとき東北の被災地ボランティアに参加したことが、大きな転換点となりました。漁師の方の手伝いをするボランティアで、休憩時間にご家族と話しているとき、「津波でいろいろなものが奪われたけれど、この土地が好きだから暮らし続けている」というお話を聞きました。それまで、被災者は苦しんでいる人々だと思っていましたが、そうではなく、辛い経験をしながらも前向きに暮らしておられるのだと気づき、**自分が偏ったイメージで被災地を見ていたことを反省しました**。また、こうした気づきを得られたのはその土地に出向いて話を聞いたからこそだと思い、国外だけでなく**日本各地でフィールドワークをして、いろいろな地域のことを知りたい**と考えるようになりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

高校での経験を通じて、フィールドワークを主な調査手法とする文化人類学という学問に関心を持ったことが、大学の現在の専攻につながっています。また、学校全体として、生徒が様々なことに関心を持てるような環境と、チャレンジを応援してくれる雰囲気があったことで、**自分の気になることに積極的に挑戦するという姿勢**が身につきました。大学では、HCAP Tokyoという学生団体でハーバード生と日本の大学生のディスカッションを企画するなど、数多くの活動に取り組んでいます。

■これからのグローバル教育への期待

SGHでは、世界規模の問題を扱うことが多いと思いますが、そうした問題ばかり見ていると、かえって身近な国内の問題に目が向かなくなってしまうという側面もあるように感じます。**グローバルな問題とともに、自分の高校のある地域で起きている問題を考える**、といった両方の視点があると、より視野が広がるのではないでしょうか。

すみや　とうこ
角谷　透子さん

㉖渋谷教育学園渋谷中学高等学校
2017年度卒

Profile

5歳から小学6年生までアメリカで過ごす。帰国後、グローバルな校風に惹かれて本校に進学。高校のときに行った東北地方でのボランティアをきっかけに、フィールドワークに関心を持つ。高校卒業後、東京大学教養学部に進学。文化人類学を学びながら、様々な活動に取り組んでいる。

後輩へのメッセージ

高校の3年間は、長いようで実は非常に短い時間です。勉強に励み、いい成績を取ることももちろん重要ですが、自由にやりたいと思うことに挑戦できる貴重な時間だったと大学生になって改めて感じました。これっておかしいかも、これ少し面白そう…そういう素直な感情を常に大事にして、色々な世界を経験してみてください。応援しています！

MUFG

12 模擬選挙の授業を通じて、地方と都市部の架け橋に

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

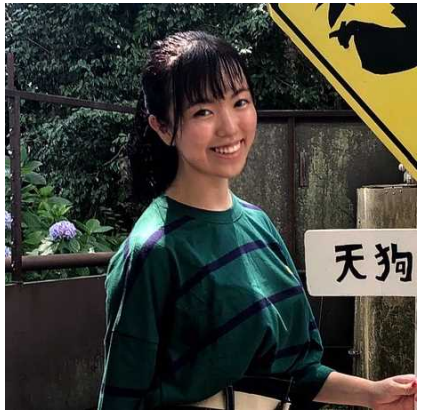
一貫校の中学時代に受けた模擬選挙の授業や、高校での模擬国連の経験が、政治への関心を培う重要なきっかけとなりました。しかし、他校の友人に聞くと、そうした経験はほとんどないとのことで、**主権者教育を広める必要がある**と感じ、高校の卒業研究のテーマとして設定することにしました。それから、法教育に積極的に取り組んでいる中学校をインターネットで調べ、その学校の先生とやりとりをはじめ、実際に中学生に向けた授業を行うことに至りました。授業の計画を立てるのは大変でしたが、**模擬国連の経験も活かしてロールプレイを取り入れるなど様々な工夫をこらしました**。当日は生徒たちが予想以上に活発に議論をしてくれ、とてもうれしかったと同時に、政治について考える場を設けることの重要性を改めて感じました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

模擬選挙の授業を行う活動は、大学に入ってからも引き続き取り組んでいます。地方の中学校と母校である渋谷中学高等学校に対して同じ授業を行い、オンラインで議論をしてもらうなど、さらに工夫を重ねています。高校時代は、自分が様々な人と接したいと思っていました。今は、地方の中学生と都心の中学生など、**普段なかなか出会う機会のない多様な人々の「架け橋」になりたいという思い**が強まっています。

■これからのグローバル教育への期待

他校とのつながりはとても重要だと思います。SGHフォーラムに参加した際、**地方の高校生と議論する機会があり、新しい発見が数多くありました**。それぞれの学校や地域で力を入れている取組は異なるので、多様な地域の学校とのつながりをもつことで、より生徒の視野が広がるのではないでしょうか。



こまき　かおるこ

小牧　薫子さん

㉖渋谷教育学園渋谷中学高等学校
2018年度卒

Profile

幼い頃より海外への関心があり、英語教育に力を入れている本校に進学。高校時代に参加した模擬国連で死刑制度について議論したことで法哲学や人権に関心を持ち、卒業後、東京大学法学部に進学。大学では模擬選挙の他にも、海外ボランティアへの参加など活動の幅を広げている。

後輩へのメッセージ

大学生になると受験勉強から解放される一方、目標を与えられないまま突き放されます。私は高校時代に多くの人の力を借りてやりたいことを遂行できました。この経験は大学生活において、専攻を決めたり課外活動をしたりする際の大きな糧となっています。皆さんもぜひ好きなことに打ち込んでください。

MUFG

13 英語力の劣等感を打ち破る豊富な経験で海外大学へ

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生のときにソーシャルジャスティスについて探究する個人プロジェクトの一貫で、渋谷駅で外国人向けに英語の道案内をする一般社団法人の取組に参加した経験は印象的でした。通学する渋谷駅で、道に迷う海外旅行者と、そういった方に支援する大人をなんとなく目にしていた自分が、実際にアクションしてみようと、一歩を踏み出すきっかけとなりました。毎月1回程度参加する中で、**英語が母国語でない旅行者に、どうすれば分かりやすく聞き取りやすく伝わるか、を熟考する経験から、座学では学べない多くの発見**を得ることができました。成果発表を通じ、高校の後輩から「その活動に参加したい！」という声をもらえて嬉しかったですね。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

SGHではグループワークも多かったので、リーダーシップを培うことが出来ました。リーダーとして振る舞うときは、メンバーとのコミュニケーションを大切にするよう心がけていますが、こういった心がけの背景には、グループワークが上手くいかなかった失敗体験があります。**とにかく経験の機会が豊富だったSGHのおかげで、失敗体験も成功体験も積み重ねることができ、自分の強みを見つけていけた**ように思います。英語力には劣等感もありましたが、豊富な経験を通じ、リーダーシップや論理性に自信を持てたことは海外大学への挑戦に繋がったと思います。

■これからのグローバル教育への期待

SGHの授業は他のどの授業より楽しい時間でした。SGHの指定校によって、探究テーマはかなり違うようなので、他校の面白そうな探究をもっと知れる機会があれば、より楽しい授業になるのでは、と思います。

わたなべ　みつる
渡辺　充さん

㉖渋谷教育学園渋谷中学高等学校
2019年度卒

Profile

英語への興味から系列の中等部に入学し、同校に進学。生徒の1割強が帰国生という環境で英語力への劣等感を覚えながらもSGHでの成功体験を積み重ねる。その蓄積から、海外大学入試への挑戦を決め、4年間文理両方が学べるグリネル大学に進学。

後輩へのメッセージ

国際課題の解決に意欲はあるけど何から始めていいか分からないという方には是非身近で困っている問題を探して解決してみて下さい。
少しずつの社会貢献が自分の自信につながると思いますし、成功あるいは失敗体験が次のステップへの大きなマイルストーンになります。
是非自分のコンフォートゾーンを抜け出して挑戦してみて下さい、応援しています！

MUFG

14 ビジネスプランを通じ、アイデアを具体化する面白さを体感

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

2年生のときに取り組んだビジネスプランの提言が、自分を変えたと感じます。私たちのチームは、フィリピンにおけるデング熱の罹患率が大人より子どもの方が高いという問題に着目しました。現地の住民から、フィリピンの蚊よけ商品はスプレーが主流で子どもが汗をかくと落ちやすいという話を聞き、身につけるものに蚊よけ効果を持たせるとよいのではと考え、ブレスレット等を提案しました。プランを具体化させるために、日本の企業などを訪問したところ、**高校生のアイデアに真剣に対等な立場で話を聞いてくれ、とてもうれしかった**です。こうして検討したアイデアを「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募したところ、グランプリを受賞することができました。**自分たちが考えたアイデアが全国に通用するという経験を積めたことは、大きな自信になりました。**

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

ビジネスプランを考えることで、**アイデアを実現可能な形に具体化することのおもしろさを学ぶことができました。**大学で学んでいる薬学についても、新たな薬品を開発して実用可能なものとしていくという意味で、共通する点があると感じています。現在はまだ研究室に配属されたばかりのため、専門的な研究はこれからですが、**高校で学んだマインドセットを活かしていきたい**と思っています。

■これからのグローバル教育への期待

SGHフォーラムに参加した際、他校の取組を聞く機会がありました。本校とは異なる取組が多く、とても興味深かったのですが、あまり交流をする時間がなく残念でした。発表だけではなく、互いに交流するような機会があると、刺激になって良いのではないかと思います。

はた　けいこ
秦　啓子さん

㉖大阪府立三国丘高等学校
2018年度卒

Profile

中学時代から理系志望であったが、高校では理系の勉強だけでなく様々なことに挑戦したいと思い、SGHコースのある本校に進学。ビジネスプランの提言に熱心に取組み、コンテストでグランプリを受賞。高校卒業後、大阪大学薬学部に進学。将来は薬品開発に関わりたいと考えている。

後輩へのメッセージ

高校生活は時間が短く、学業や部活動に加え、新しいことに挑戦するのは大変なことです。
ただ振り返ってみると、その一つ一つが何にも代え難い財産となり今の自分を作っていると私は感じますので、臆することなく何事にもチャレンジし、充実した時間を送ってください。

MUFG

15 米国大学の学びに触れ、海外大学への進学を目指す

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生の時に参加した、アメリカのリーハイ大学での研修が大きな転機となりました。ビジネスに関する多様な授業を受けながら、自分たちが日本で考えてきたビジネスプランをブラッシュアップするというもので、授業はすべて英語で行われました。そのため、理解しにくい部分も多々ありましたが、**生徒同士でわからなかった部分を毎日夜まで議論することで、理解が進むとともに生徒の中での一体感も生まれました。**また、アメリカの大学生が活発に議論をしたり、教授に鋭い質問を投げかけている姿を間近で見ることで、**自分も大学でこうしたアクティブな学びをしたい、と強く感じ、海外大学への進学を考えるようになりました。**

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

高校3年間を通じて、**どんなことでもその背景を自分なりに考えることができるようになりました。**そうした力が身についたのは、些細な疑問でも常に寄り添って考えてくれる友人や先生方がいたからだと思います。また、3年間受け続けた国際関係に関する授業も今につながっています。とても難しい内容で、当時は理解しきれないことも多かったのですが、その授業を通じて**どんな国も他国との関係なしに成り立つことはできない、ということを知り、大学で国際関係学を学びたいと考えるきっかけとなりました。**

■これからのグローバル教育への期待

交換留学等でなく直接海外大学に進学する場合、経済的に大きな負担がかかりますが、国や民間団体が提供する奨学金は倍率が高かったり所得制限があったりと、なかなか利用できないのが現状です。**海外で学びたい、という気持ちが経済的要因で損なわれることがないよう、経済支援がさらに充実することを望みます。**

むかい　ちひろ

向井　千尋さん

㉖大阪府立三国丘高等学校
2019年度卒

Profile

SGHのことを知らずに本校に進学したが、説明会を聞き、英語の上達ではなくグローバル人材の育成を目標としているという理念に共感してプログラムに参加。高校卒業後はイギリスのDurham Universityに進学予定。SGHで関心を持った国際関係学を専攻したいと考えている。

後輩へのメッセージ

自分はこれからどんな道を進んでいけばいいのか悩んでいる方も多いのではないでしょうか。そんなときは、なんとなく興味があるなあ、面白そうだあという、自分の中にある「なんとなく」を大切にしてみてください。当時の私はそんな気持ちをもって、学校の外にまで視野を広げてみました。もちろん学校の学びは大切ですが、学校では学べないこともたくさんあります。皆さんが自分らしい進路選択ができるよう、応援しています！

MUFG

16 自分から掴んでいく経験で培われる、積極性

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

フィリピンでの10日間のフィールドワークはかけがえのない時間でした。発展途上国の現状に関する写真を見てもどこか他人事ととらえていた私ですが、ストリートチルドレンやつぶれかけの屋台などの様子を、直接目にしたときの衝撃はとても大きかったです。これは、放っておいて良い問題ではなく、早急に解決すべき問題だと痛感しました。

グループでの探究課題は、ゲーム依存解消のためのアプリケーション開発をしましたが、ゲーム依存は発展途上国でも起こりうる課題でもあります。この点もフィリピンの方とお話しする中で学んだことで、自身の先入観が覆った出来事です。SGHでは、**自分の目・耳で事実を知ることの大切さ**を学びました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

SGHでの経験に裏打ちされたスキルへの自信から、より積極性が増したように思います。SGHでの活動を通じ、**自分には人とは違う何かがある**と思えるようになったからこそ、大学の授業でも、積極的にプレゼンテーションなどに挑戦しています。SGHによって**「自分から掴んでいくこと」と「失敗して学ぶ」ことの大切さを経験できた**ことは自分にとっての財産になっています。まだ大学に入学したばかりですが、今後は関心の幅を広げながら、貧困へのアプローチが出来る進路に進めればと、考え始めています。

■これからのグローバル教育への期待

SGHを担当していた研究主任の先生をはじめとした教師陣と、連携機関の講師の方々には感謝しかありません。SGHという枠組みが外れても、こういった取組が継続されるよう、私自身も卒業生として貢献していきたいと思っています。

しのざき　こうすけ
篠崎　航介さん

㉖大阪府立三国丘高等学校
2019年度卒

Profile

先進国の成功事例をヒントに発展途上国への支援策を導くという本校のSGHのプログラムに魅力を感じ、三国丘高校に進学。支援策の検討に際しては金銭面の援助の必要性を痛感し、高校卒業後、経済学を学ぶべく大阪大学経済学部に進学。

後輩へのメッセージ

高校時代にも、何かに熱中するチャンスはたくさんあります。国際的な活動に限らず、関心のあることには積極的に取り組んでほしいです。
そこで新たな経験ができ、それが大学時代や将来、必ず役に立つものとなります。
挑戦しないと何も始まりません。応援しています！

MUFG

17 専門家と住民がともに廃炉問題を考える機会の創出

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

ドイツとニューヨークでの海外研修が、廃炉問題に対する自分の向き合い方を変える大きなきっかけとなりました。ドイツ研修では、住民が主体となって環境問題に向き合ってきた歴史を知り、ニューヨーク研修では、国連本部を訪問し、AIに関する議論を行う中で、科学にもとづく合理的判断だけでなく、一般の人々の意見や社会的妥当性を考慮しなければよりよい選択はできないということを学びました。こうした経験から、福島における廃炉問題を考える上でも、**専門家だけでなく住民を巻き込んで議論していくことの必要性を痛感し、住民や専門家など多様なメンバーを集めたワークショップを開催しました**。参加者からは、顔の見える関係で議論をすることができてよかったという感想をもらい、挑戦の手ごたえを感じました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

中学生の頃から原発問題に技術者として関わりたいと考えており、それは今も変わっていません。しかし、高校の学びを通じて、科学的な専門知識だけでは不十分であり、専門家と住民が歩み寄り、一緒に考えていくことが必要だと強く感じるようになりました。そのため、現在は**大学で物理学の基礎知識を学びながら、並行して廃炉後の地域社会をテーマとした研究会に参加**するなどして、視野を広げるよう心がけています。

■これからのグローバル教育への期待

自身は高校入学当初より廃炉問題という関心が明確でしたが、なかなかテーマが定まらず悩んでいる生徒もいました。**いかに興味の持てるテーマ設定ができるかによって、その後の活動への本気度も変わってくる**と思います。教員による面談や、外部勉強会の紹介など、関心を引き出すためのきっかけや工夫があるとよいと思います。

えんどう　りょう
遠藤　瞭さん

㉗福島県立ふたば未来学園高校
2019年度卒

Profile

福島県大熊町の出身で、福島の復興に携わりたいと考え、本校に進学。SGHでは主に原子力発電所の廃炉問題に取組み、住民を巻き込んだ合意形成の重要性を痛感。高校卒業後、新潟大学理学部物理学科に進学し、原子力物理を専門に学んでいる。

後輩へのメッセージ

大きな問題に取り組んだ経験は目に見える形での成果、自分の変化や成長が分かりにくいかもしれませんが、いつか振り返った時その経験が自分の血肉になっていると必ず感じることでしょう。考えたこと感じたこと学んだこと全てを大切に頑張ってください。

MUFG

18 福島の課題に真剣に向き合う中で、学びにどん欲に

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生の時に、ニューヨークの国連本部を訪問し、福島のことを発信すると同時に自分たちの考える課題解決の方法を提言する機会がありました。この機会に向けた準備は改めて何が真の課題なのかを考え直すきっかけとなりました。発表に向け、被災した語りべの方のお話を聞く中で、風評被害などのよく知られた問題だけではなく、**帰宅困難区域とそれ以外のエリアの住民の心の分断という目に見えない問題が復興の妨げになっているということに気がつきました**。そこから、**まずはお互いの状況を知ろうとすること、伝えることが問題解決の一歩**だと考えるようになりました。この考えをニューヨークで国連職員に伝えたところ、大いに賛同してくれ、自信につながりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

高校入学前は、どちらかというと社会問題などを考えるのは面倒だと感じてしまうタイプでした。しかし、**SGHでの学びを通じ、社会全体への視野が広がるとともに、物事を知れば知るほどおもしろいと感じるようになりました**。学びに対して意欲的になったことで、大学入学後もゼミでの活動などに積極的に取り組むことができています。また、ニューヨーク研修で片言の英語でも話してみると理解してもらえたという経験をしたことで、**自分から積極的にコミュニケーションをとることができるようになった**と感じます。

■これからのグローバル教育への期待

他校の状況を知ることで得られるものは大きいと思います。参加者が限られた全国規模のイベントだけでなく、たとえば、**生徒同士の地域交換留学や、ブロック単位での交流会など、もっと気軽な交流が増える**と、学びの幅が広がるのではないでしょうか。

あきやま　あゆこ
秋山　杏由子さん

㉗福島県立ふたば未来学園高校
2019年度卒

Profile

福島県の出身で、東日本大震災で被災した人の力になりたいという思いから、本校へ進学。高校での経験を通して、自治体職員として復興に貢献したいと考えるようになり、地方自治を学ぶため福島大学の行政政策学類に進学。多様な人々による熟議を通じた街づくりを目指している。

後輩へのメッセージ

知ることや学ぶこと、考えることは続ければ続けるほどきっと楽しくなります。世界中にある多様な問題や課題と向き合うことをぜひ楽しんでください。皆さんが思うよりも皆さんの持つ力は大きく、強いです。

MUFG

19 自身の感じた英語の面白さを福島の後輩に届けたい

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校2年生のときのニューヨーク研修では、英語力への自信のなさから質問さえ出来ないという初日を経験し、打ちのめされ、とても悔しかったのを覚えています。メンバー全員で「何のために海外研修に来たのか」と問い直し、最終的には参加者12名全員が質問するようなチームに生まれ変わり、**「人って変わるんだ」と心底感じました。**

また、受け身でないアクティブラーニング型の英語の授業には日々驚かされていました。世界で起きている、環境問題やジェンダー、人種差別といった課題をテーマに英語でディスカッションを重ねる経験を通じ、**探究の楽しさを感じるとともに、中学時代から好きだった英語がもっと好きになりました。**

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

中学時代の自分では考えられないほど、SGHのおかげで積極的に発言できる姿勢が身に付きました。様々な経験を通じて自信がついたのかな、と思います。大学では、高校で完結しきれなかった、地域の人との直接の関わりから課題解決をするという取組を深めていきたいと思っています。福島大学の授業は地域との協働の機会が多いので、楽しみです。将来は**福島県の英語教員になって、ふたば未来の英語の先生のような「世界に興味を持たせる」授業を通じて、地元に恩返しをしたいと思っています。**

■これからのグローバル教育への期待

日々の授業の中で海外の高校生とディスカッションできる機会があるとより良いと思います。専門性はそれほど高くなくても、自分の言葉と視点を基に、海外の高校生と探究を進めていける機会があると良いのではないでしょうか。

しが　こころ
志賀　瑚々呂さん

⑰福島県立ふたば未来学園高等学校
2019年度卒

Profile

強い志望動機はなく本校に進学したが、中学時代から好きだった英語を学べ、探究を深めていく本校の授業は楽しく感じた。高校卒業後は、福島県の英語教員を目指すべく、福島大学の人間発達文化学類人文科学コースに進学し英語を専門として学んでいる。

後輩へのメッセージ

何気なく挑戦してみたことや、軽い気持ちでやってみたという行動が後に自分にとってとても大きな収穫をもたらします。不安な気持ちがあっても試しにやってみるということが大事なのだと思います。自分が夢中になれるもの、ぜひ自分から見つけにいってみてください。

MUFG

20 豪州留学で動物保護に関心を抱き、豪州大学進学へ

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校でのオーストラリア留学が、自分の進路を決めるきっかけとなりました。もともと動物が好きで、留学中も週末のたびに現地の動物園や動物保護施設を訪問していました。その中で、オーストラリアには日本のようなペットショップがなく、ペットを飼いたい人は保護施設から受け入れることが一般的であると知り、**動物保護に対する意識の高さを感じました**。帰国後、日本の実態を深く知ろうとペットショップでボランティアをしたところ、売れ残った動物は殺処分になるということがわかりました。**人間が生み出した命を人間が捨てるという日本の状況に対して憤りを感じるとともに、こうした現状を変えるため、オーストラリアの先進的な取組をより深く知りたい**と思うようになりました。そこで、大学ではオーストラリアに留学し、動物学を専門的に学ぶことに決めました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

高校では、留学以外にも様々なチャレンジの機会があり、その経験から自らアクションを起こせるようになったことが大きな成長だと思います。**失敗することもたくさんありましたが、こうした経験の積み重ねが自信につながり、海外大学進学という決断にふみきることができました**。留学後の授業はSGHに限らずすべて英語で、プレゼンテーションの機会も豊富で海外大学でも十分通用する英語力を身につけられました。

■これからのグローバル教育への期待

グローバル教育といっても、**留学など海外に行くことそのものが目的になってしまうと、帰国後にモチベーションが下がってしまうことになりかねません**。海外に行くまでの事前準備にしっかりと時間をかけ、関心のあるテーマを見つけておくことで、より深い学びにつながるのではないかと思います。

かない　みく
金井　美玖さん

㉖立命館宇治高等学校
2017年度卒

Profile

1年間の留学プログラムに魅力を感じ、本校に進学。オーストラリアへの留学をきっかけとして、動物保護問題への関心が高まる。高校卒業後はオーストラリアのジェームスクック大学に進学し、動物学を専攻。将来は大学での学びを活かし、日本で動物保護問題に取り組みたいと考えている。

後輩へのメッセージ

高校ではたくさんのチャンスを見つけることができます。また自分でチャンスを作ることができる環境もあります。少しでも興味を持ったことに是非挑戦して下さい。新しいことに挑戦すると失敗することもありますが、そのすべての経験は未来への自分の道を開いてくれます。残りの高校生活も後悔のないように送って欲しいと思います。応援しています。

MUFG

21 留学を通じて自身のバックグラウンドを見つめ直す

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

オーストラリア留学で得た出会いが、大きな転機となりました。私の実家は代々工芸材料である金箔を販売しているのですが、留学先で仲良くなった友人が実家の会社のホームページを見て「伝統的なのは分かるけどあまりかっこよくない、あなたのセンスでもっとよく出来るはず」と言ってくれました。それまでは家業に無関心だったのですが、**その言葉が私の使命感といい意味での焦りに火をつけてくれました。**その時から金箔をはじめとする日本の伝統的な産業の真の魅力を生かす方法を模索し始め、ビジネスプランコンテストやインターンシップに参加する原動力となっています。今でも悩んだときに話を聞いて助言をくれる留学先で出会った人たちとの繋がりに感謝です。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

留学はとても大変な経験ではありましたが、コンフォートゾーンから抜け出すことで視野が広がる喜びを知るとともに、自身のバックグラウンドやアイデンティティを見つめ直すきっかけとなりました。また、いろいろな人に出会い、多様な考え方を知る中で、**性別や国籍といった表面的なことではなく、その人が本質的にどのような人なのか知ることの大切さ**に気づけたことも大きな成長だと感じます。大学では**リベラルアーツを学ぶことで、多角的な視点から物事の本質を見抜く力をさらに磨きたい**と考えています。

■これからのグローバル教育への期待

高校時代に興味のあることは人それぞれで、全員が探究活動などに熱心に取り組むことは難しいと思います。それでも**日々の授業に「グローカル」な課題への情熱に火をつける種が散りばめられていれば、それらは後々花開く**と思います。部活動等も含め全生徒が興味のあることに打ち込みながらのびのび学べる環境が大切だと思います。

ほり　あかり
堀　灯里さん

㉖立命館宇治中学校・高等学校
2018年度卒

Profile

留学プログラムに魅力を感じて本校に進学。オーストラリア留学中自身の家業でもある日本の伝統的な工芸材料の価値と脆弱性に気づいた。高校卒業後は早稲田大学国際教養学部に進学し、伝統文化とビジネスの関係性を軸にリベラルアーツを学ぶ。

後輩へのメッセージ

まずコロナ禍で海外に行くことが難しい時代になってしまい、エネルギーにあふれる高校生の皆様のもどかしいお気持ちをお察し致します。私は高校時代海外に足を運ぶ機会に恵まれましたが、「もっと日本のことを知っておくべきだった」と思った場面が多々ありました。地元で家族と過ごしながら学ぶ今の時間はきっとこれからの私たちの糧になると信じています。新しい時代を創っていく若い世代として、共に精進していきましょう。

MUFG

22 プレゼンスキルや度胸を強みに、海外大学で挑戦

■高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

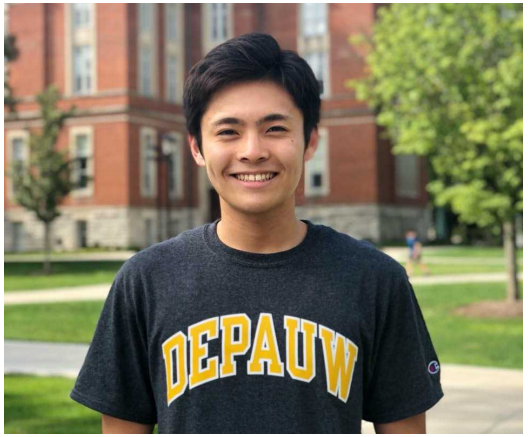
高校1年生の時に受けた外部講師による講義が、海外への関心を高める大きなきっかけとなりました。国際機関で働く方の講義の中で、「日本という政治的に安定した国に暮らす者として、政情が不安定な国の人々を支えることは使命だと感じている」というお話がありました。それを聞き、**自分自身の置かれた環境が恵まれていることに気がつくとともに、自分も世界のために貢献していきたいという思いが強くなりました。**また、2年生で参加したオーストラリア研修では、現地の大学生らと交流することで、海外に暮らす人々の存在がぐっと身近になりました。こうした経験を通じ、**大学では海外に進学し、世界規模の視点で物事を考えていきたい**と強く考えるようになりました。

■高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

SGHの活動を通じて習得した**タイムマネジメントや英語でのプレゼンテーションスキル**は、大学生活でも大いに役立っています。英語を話すことはもともと得意だったわけではないのですが、高校で英語による発表をする機会が非常に多く、試行錯誤しながら徐々に上達していきました。**大学の授業でプレゼンテーションを行ったところ、聞き手を魅了し引き込む工夫ができていると評価され、自信につながりました。**また経験値が上がったことで、多少のことでは動揺しない度胸も身についたと感じます。

■これからのグローバル教育への期待

SGHの活動は学校単位ですが、グローバルな関心を持っている生徒は指定校以外にも多くいると思います。特に地方ではSGH指定校も限定されているため、学校単位だけでなく、**市町村や県単位での取組に広げることで、より多くの生徒に学びの機会を提供できるのではないでしょうか。**



はらた　ゆうき
原田　雄生さん

㉗秋田南高等学校
2018年度卒

Profile

本校入学後にSGHのことを知り、海外での経験を積みたいと考えプログラムに参加。外部講師の講義や海外研修を通じ、大学でも世界規模の視点で学びを深めたいと考え、高校卒業後はアメリカのデポー大学に進学。歴史学や会計学など、様々な分野を学んでいる。

後輩へのメッセージ

「国際課題の解決」と聞くと、政治、金融、テクノロジーなど難しい言葉がたくさん思い浮かぶかもしれません。しかし、国際課題の解決とは、「同じ地球に住む困っている人を助けたい」という思いから始まるのではないかと思っています。だからこそ取り組む「課題」は何なのかという１番のゴールを決して見失う事なく、研究を頑張って欲しいです。

MUFG

Ⅵ　No4　卒業生・高校生　ワークショップ

Ⅵ-1　No4卒業生・高校生　ワークショップ　実施設計

1.　目的

- SGH在校生、卒業生の協働を通じて、これまでのSGHの成果や参加した体験等を活用し、文理両方を学ぶ高校改革と高大接続改革を推進するリーディング・プロジェクト（WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業）への提案や、Society5.0を見据えたグローバル教育に関する提案を行い、グローバル教育を行う学校現場に向けた改善メッセージを提示することを目的に開催する。
- 生徒目線から見たグローバル教育推進や普及の障壁の解消方法についてヒントを得ることを期待する。

2.　参加者

- H26年度指定校、H27年度指定校から推薦のあった大学生　/7名
- H28年度指定校から選定された高校生　/6名

参加者名（敬称略・五十音順、同じ高校名は2回目以降省略して記載）

熊沢綾乃　千葉県立佐倉高等学校
／小牧薫子　渋谷教育学園渋谷中学高等学(卒)
／篠崎航介　大阪府立三国丘高等学校(卒)
／中墓千智　お茶の水女子大学附属高等学校(卒)
／中山天七　佐倉高校
／長屋徹也　高槻高等学校
／庭野風花　佼成学園女子中学高等学校(卒)
／発出和志　筑波大学附属坂戸高等学校(卒)
／原田雄生　秋田南高校(卒)
／前田尚輝　高槻高校／松田優斗　佐倉高校／三井育俊　高槻高校
／山隈恵里子　神戸市立葺合高等学校(卒)

3. 実施プログラム

- 以下のとおり、半日のオンラインプログラムとして開催した。開催中協働を促すために、①事前の自己紹介カード作成、②ワークショップ　の最中に2度のグループワークセッションの設定、③事後のネットワーッキングのためのSNS上の繋がりの場の提供を行った。
- また生徒主体で課題設定、課題解決が行われるよう、①事前に話題提供資料を提供、②ファシリテーター、タイムキーパーを設定の上事前に打ち合わせ、③討議内容を共通理解できるようグラフィックレコーダーが画面上で討議内容を随時更新するといった工夫を行った。
  - 12：30-　接続確認、Zoom、Jam　Board、Googleフォーム練習
  - 13：00-13：25　開催挨拶、事前の自己紹介シェア、本日のテーマ案内
  - 13：25-13：30　休憩時間
  - 13：30-14：30　グループワークセッション　①課題設定「自身のSGHを振り返って、課題探究プログラムに改善点はなかったか？」
  - 14：30-15：20　全体での課題設定
  - 15：20-15：30　休憩時間
  - 15：30-16：30　グループワークセッション　②課題解決
  - 16：30-17：30　全体での解決案提示
  - 17：30-18：00　振り返り、SGHの魅力についてメッセージ発信

MUFG

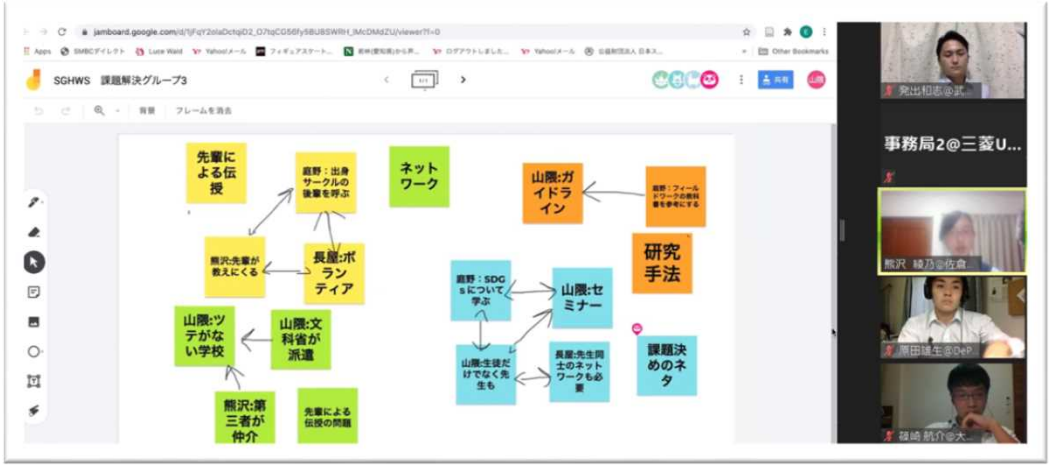
Ⅵ-2　No4卒業生・高校生　ワークショップ　開催結果

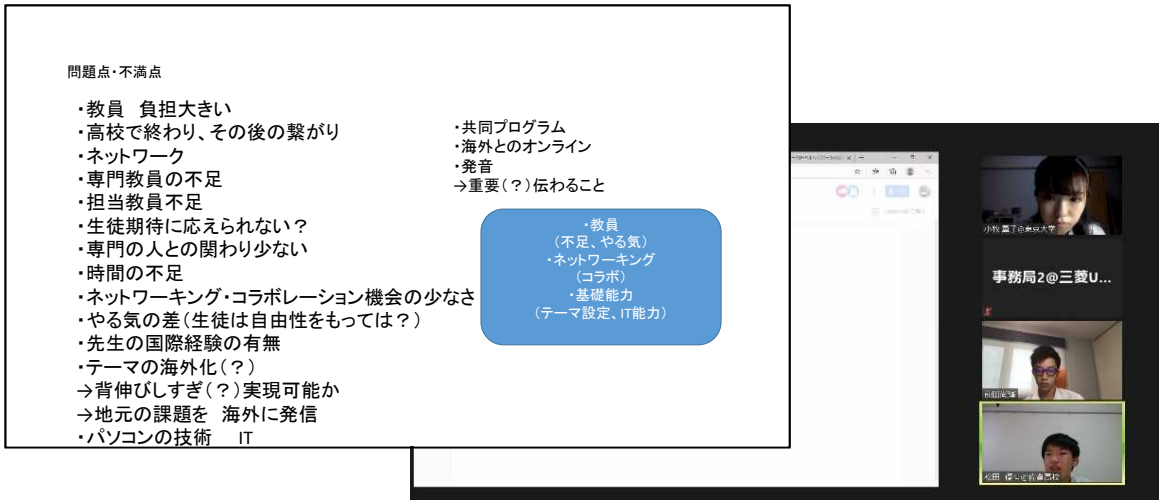
1. 討議内容

- 議論のテーは「後輩に届け！理想のプログラム～これからのグローバル人材育成のための課題探究プログラムの提案～」をもとに、5時間程度議論を行った。
- 議論に際しては、事務局からの話題提供（これまでのSGHに関する成果検証結果のデータ）だけでなく、自身のSGHでの経験などを活用した。
- その結果、SGHの改善の視点として「“自由”な探究活動にするためのテーマ設定、強すぎる競争意識の改善、より強いネットワーキングの構築」の3点にまとめられた。
- そして、3つの課題を具体的に解決するための提案として、①”自由”なテーマ設定実現のために学校外の力を借りることを目指し、データベース構築やクラウドファンディング、オンライン活用などのアイディアが出された。
- また、②競争意識の改善には 、SGHに関りにくい層も参加できる発表機会の増加、ランキングだけでなく、研究テーマを深めあえるフィードバックの機会の創出が提案された。
- ③ネットワーキングの構築のためには、生徒同士のネットワークも重要だとし、学生委員会やSNSを活用した意見箱や自由投稿のフィード創設などの提案にまとめられました。
- 3つの課題に焦点化した提案の内容はどれもSGHや、これからのグローバル教育を「もっと良くしたい」と強く思い、「自分には何ができるか」を真剣に考えた結果となった。

2.　参加者がワークショップ開催前、開催後に挙げたSGHの魅力

- 以下のように、グループワークセッションではオンライン上のホワイトボードを活用するほか、PPTやワードの画面共有など、各々で議論を整理し、全体ワークの際にグループワークの結果を発表した。



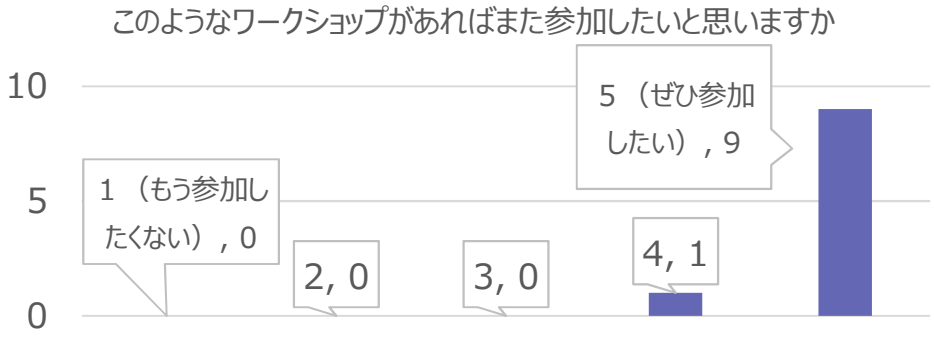


MUFG

Ⅵ-3　No4卒業生・高校生　ワークショップ　開催結果の振り返り

1. アンケート結果

- ワークショップ終了後、任意・無記名のアンケート調査を行ったところ、10名の回答が得られた。
- 満足度については、全員が4以上の高い評価となった。また、リピートしたいかについては、以下のとおり9名が5の最も高い評価を選択していた。



- また、本ワークショップで得られた気づき、新たな学びとして以下の点が挙げられた。（一部）
  - 今まで以上に自分の視野が広がり、より先へ広く視点を向けることができるきっかけになったと思う。
  - （WSで出た提案に対し）本来自分なら考えなかった他校や全国レベルでのデータの共有ができればもっと研究が発達すると思った
  - これだけ真剣にSGHを考える学生がいるなら、SGH生ということにもっと誇りを持って学生たちが発信・活躍できるようになればよいなと思った。
  - ITスキルやプレゼンテーションスキルなど基礎能力の大切さ、英語力の重要性を感じた。

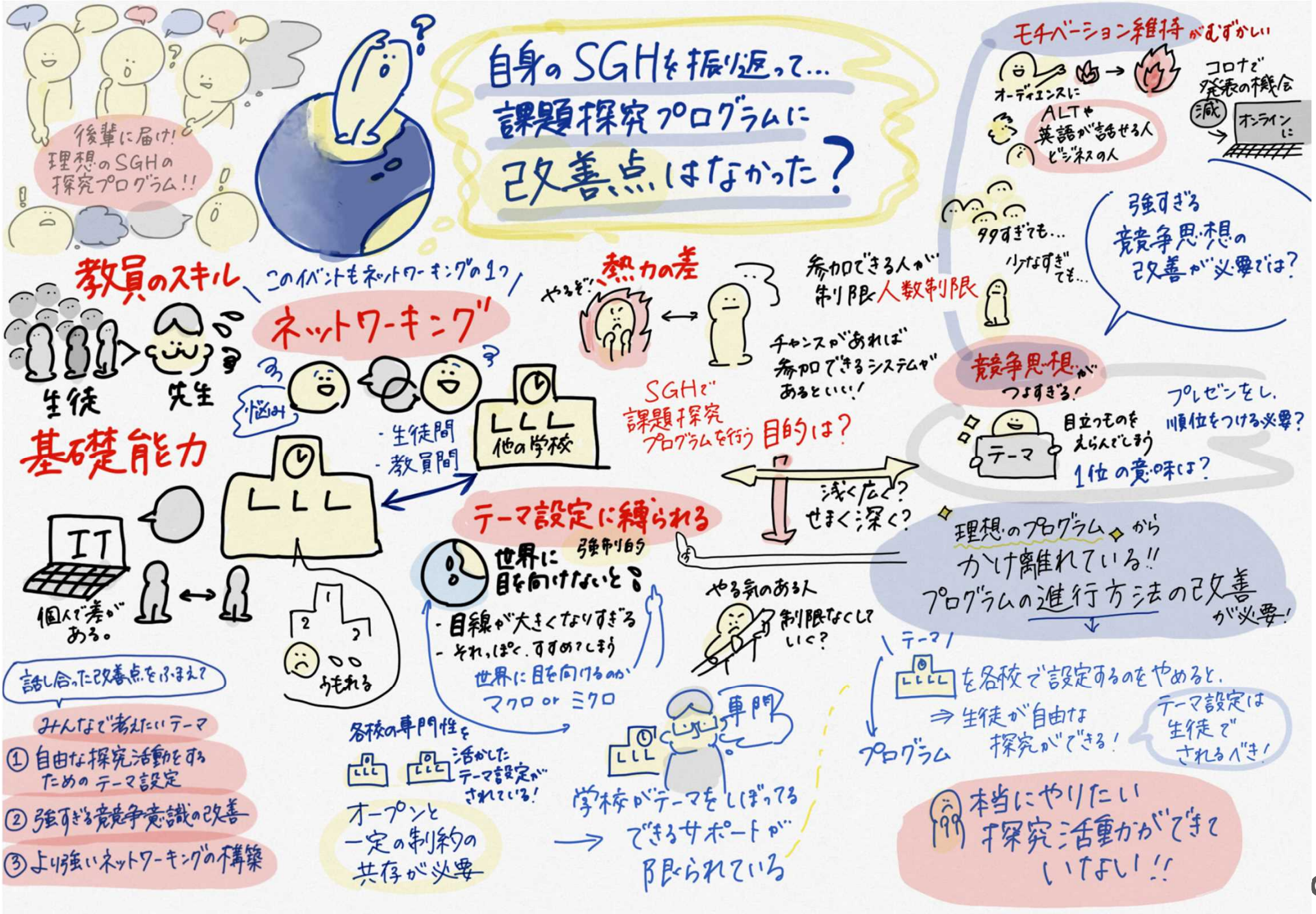
2.　参加者がワークショップ開催前、開催後に挙げたSGHの魅力

- 以下のとおり、SGHの魅力について、事前に1枚紙を作成いただき、ワークショップの最後の時間に振り返りとともに、個々の感じるSGHの魅力について意見を得た。

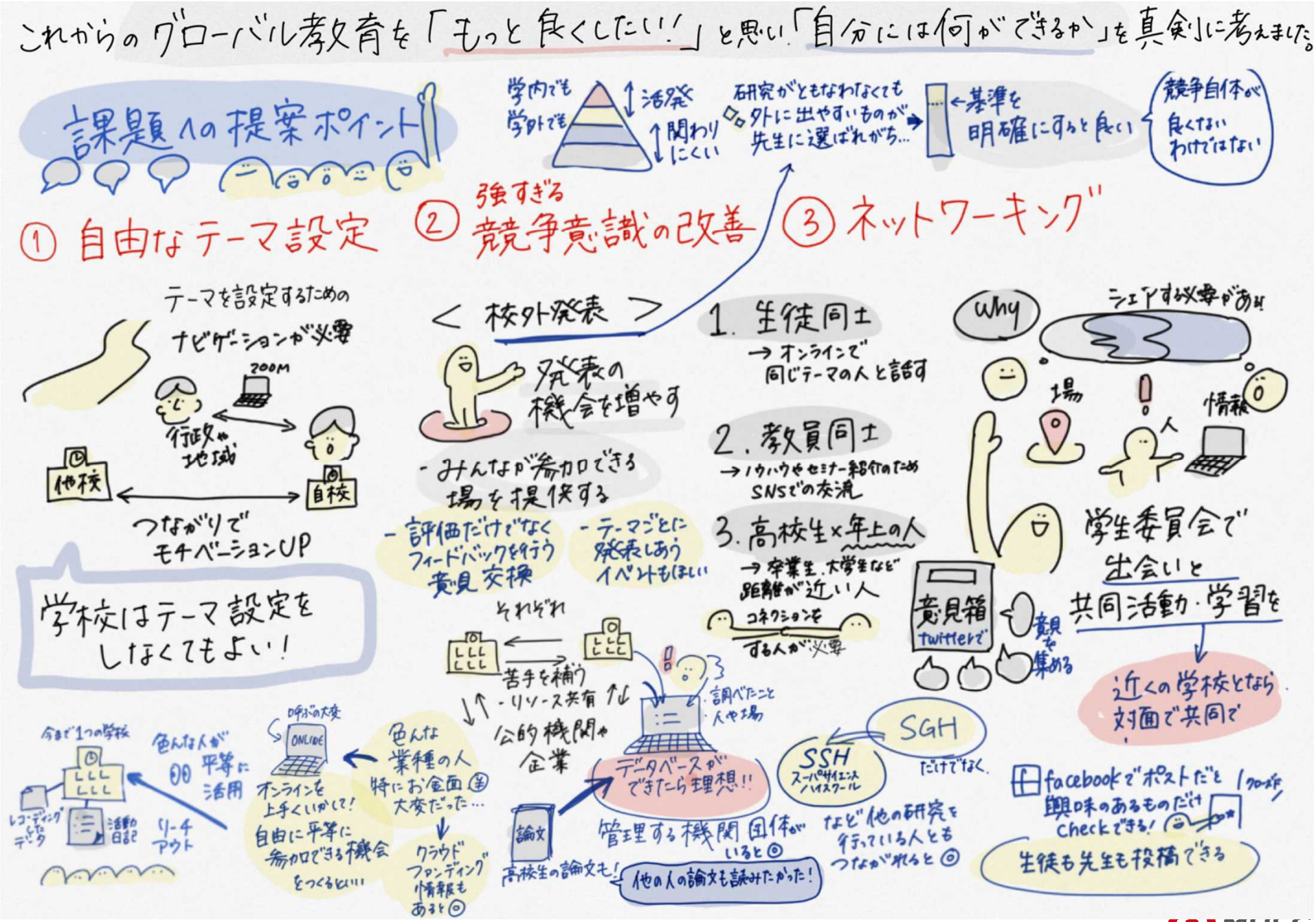
- 左記のアンケート調査の自由回答では下記の魅力が挙げられた。（一部）
  - 高校生が大学生のように研究し自分の見解を深めることができる、それに対して学校の先生や他校の大学の先生にサポートしてもらえること。
  - 発信力（SGHで学ぶ中で自分の意見をしっかり持って相手に伝えられることがSGHを受けてきた学生の強み）。
  - 学生の可能性が広がること（学生自身が予想もできなかった出会いや成長に恵まれ、飛躍するチャンスがあること）。
  - 探究の内容を通して、社会や世界に関心を持つフックができ、遠い問題を自分事化できるようになったことは将来的に大きなプラスになる。
  - 授業だけで学べないことをでき、社会に出た後も発揮できる力を身に着けられること。

MUFG

Ⅵ-4　No4卒業生・高校生　ワークショップにてまとめられた「課題設定」概要



Ⅵ-５　No4卒業生・高校生　ワークショップにてまとめられた「課題解決」概要

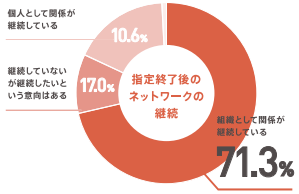


Ⅵ　No4　卒業生・高校生　ワークショップ
Ⅵ-5　ワークショップ等の成果をまとめた、パンフレットについて

Future：

SGHネットワークの拡がりと、これから

SGHの魅力の一つは「ネットワーク」。高校の教職員間での協働・連携だけでなく、SGH以外の高校、大学、企業等の外部との連携も進んでおり、外との連携はSGH指定終了後も継続しています。（指定終了後も国内連携機関との連携継続がある学校は８割以上。）



SGH指定校のご紹介

平成26年度指定校

No	都道府県	学校種	学校名
1	北海道	公立	北海道登別明日中等教育学校
2	北海道	公立	市立札幌開成中等教育学校
3	北海道	私立	札幌聖心女子学院高等学校
4	青森県	公立	青森県立青森高等学校
5	宮城県	公立	宮城県仙台二華中学校・高等学校
6	茨城県	公立	茨城県立土浦第一高等学校
7	群馬県	公立	群馬県立中央中等教育学校
8	群馬県	公立	高崎市立高崎経済大学附属高等学校
9	埼玉県	公立	埼玉県立浦和高等学校
10	埼玉県	国立	筑波大学附属坂戸高等学校
11	千葉県	私立	渋谷教育学園幕張高等学校
12	東京都	私立	渋谷教育学園渋谷高等学校
13	東京都	私立	早稲田大学高等学院
14	東京都	私立	佼成学園女子中学高等学校
15	東京都	私立	順天高等学校
16	東京都	私立	品川女子学院
17	東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校
18	東京都	私立	国際基督教大学高等学校
19	東京都	私立	玉川学園高等部・中学部
20	東京都	国立	お茶の水女子大学附属高等学校
21	東京都	国立	筑波大学附属高等学校
22	神奈川県	県立	神奈川県立横浜国際高等学校
23	神奈川県	公立	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校
24	神奈川県	私立	公文国際学園中等部・高等部
25	富山県	公立	富山県立高岡高等学校
26	石川県	国立	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
27	福井県	公立	福井県立高志高等学校
28	山梨県	公立	山梨県立甲府第一高等学校
29	長野県	公立	長野県長野高等学校
30	岐阜県	公立	岐阜県立大垣北高等学校
31	静岡県	公立	静岡県立三島北高等学校
32	愛知県	公立	愛知県立旭丘高等学校
33	愛知県	私立	名城大学附属高等学校
34	三重県	公立	三重県立四日市高等学校
35	滋賀県	公立	滋賀県立守山中学・高等学校
36	京都府	公立	京都府立嵯峨野高等学校
37	京都府	公立	京都市立朱雀高等学校
38	京都府	私立	立命館宇治中学校・高等学校
39	京都府	私立	立命館高等学校
40	大阪府	公立	大阪府立北野高等学校
41	大阪府	公立	大阪府立三国丘高等学校
42	大阪府	私立	関西大学高等部
43	兵庫県	公立	兵庫県立姫路西高等学校
44	兵庫県	公立	神戸市立葺合高等学校
45	兵庫県	私立	関西学院高等部
46	奈良県	公立	奈良県立畝傍高等学校
47	奈良県	私立	西大和学園中学校高等学校
48	島根県	公立	島根県立出雲高等学校
49	岡山県	公立	岡山県立岡山城東高等学校
50	広島県	私立	広島女学院中学高等学校
51	山口県	公立	山口県立宇部高等学校
52	徳島県	公立	徳島県立城東高等学校
53	愛媛県	公立	愛媛県立松山東高等学校
54	熊本県	公立	熊本県立済々黌高等学校
55	大分県	公立	大分県立大分上野丘高等学校
56	宮崎県	公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

平成27年度指定校

No	都道府県	学校種	学校名
1	北海道	私立	立命館慶祥中学校・高等学校
2	北海道	私立	札幌日本大学高等学校
3	岩手県	公立	岩手県立盛岡第一高等学校
4	宮城県	私立	仙台白百合学園中学・高等学校
5	秋田県	公立	秋田県立秋田南高等学校
6	福島県	公立	福島県立ふたば未来学園高等学校
7	埼玉県	公立	埼玉県立不動岡高等学校
8	埼玉県	私立	早稲田大学本庄高等学院
9	千葉県	公立	千葉県立成田国際高等学校
10	千葉県	公立	千葉県立松尾高等学校
11	東京都	国立	東京学芸大学附属国際中等教育学校
12	東京都	国立	東京工業大学附属科学技術高等学校
13	東京都	私立	青山学院高等部
14	東京都	私立	富士見丘中学校高等学校
15	神奈川県	公立	横浜市立南高等学校
16	神奈川県	私立	法政大学国際高等学校
17	新潟県	公立	新潟県立国際情報高等学校
18	石川県	公立	石川県立金沢泉丘高等学校
19	長野県	公立	長野県上田高等学校
20	愛知県	国立	名古屋大学教育学部附属中・高等学校
21	愛知県	公立	愛知県立時習館高等学校
22	愛知県	私立	中部大学春日丘高等学校
23	京都府	公立	京都府立鳥羽高等学校
24	京都府	公立	京都市立西京高等学校
25	京都府	私立	京都学園高等学校
26	京都府	私立	同志社国際高等学校
27	大阪府	国立	大阪教育大学附属高等学校平野校舎
28	大阪府	公立	大阪府立豊中高等学校
29	大阪府	公立	大阪府立能勢高等学校
30	大阪府	公立	大阪府立千里高等学校
31	大阪府	公立	大阪府立泉北高等学校
32	大阪府	私立	関西学院千里国際高等部
33	大阪府	私立	関西創価高等学校
34	大阪府	私立	清風南海高等学校
35	兵庫県	国立	神戸大学附属中等教育学校
36	兵庫県	公立	兵庫県立兵庫高等学校
37	兵庫県	公立	兵庫県立伊丹高等学校
38	兵庫県	公立	兵庫県立国際高等学校
39	兵庫県	私立	啓明学院中学校・高等学校
40	鳥取県	公立	鳥取県立鳥取西高等学校
41	島根県	公立	島根県立隠岐島前高等学校
42	岡山県	公立	岡山県立岡山操山高等学校・中学校
43	岡山県	私立	岡山学芸館高等学校
44	広島県	国立	広島大学附属福山中・高等学校
45	広島県	公立	広島県立広島中学校・広島高等学校
46	愛媛県	国立	愛媛大学附属高等学校
47	愛媛県	公立	愛媛県立宇和島南中等教育学校
48	高知県	公立	高知県立高知西高等学校
49	福岡県	公立	福岡県立鞍手高等学校
50	福岡県	公立	福岡県立京都高等学校
51	福岡県	私立	福岡雙葉中学校・高等学校
52	福岡県	私立	明治学園中学校・高等学校
53	福岡県	私立	中村学園女子高等学校
54	長崎県	公立	長崎県立長崎東高等学校
55	宮崎県	公立	宮崎県立宮崎大宮高等学校
56	鹿児島県	公立	鹿児島県立甲南高等学校

平成28年度

No	都道府県	学校種	学校名
1	宮城県	公立	宮城県気仙沼高等学校
2	栃木県	公立	栃木県立佐野高等学校
3	埼玉県	公立	埼玉県立浦和第一女子高等学校
4	千葉県	公立	千葉県立佐倉高等学校
5	東京都	国立	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校
6	東京都	私立	創価高等学校
7	大阪府	私立	高槻高等学校・中学校
8	和歌山県	公立	和歌山県立日高高等学校
9	佐賀県	公立	佐賀県立佐賀農業高等学校
10	熊本県	公立	熊本県立水俣高等学校
11	沖縄県	公立	沖縄県立那覇国際高等学校

SGH指定校の詳細はこちら 〉

指定校の教育方法はこちら 〉

NEW WWL事業のご案内

将来、世界で活躍できるイノベーティブなグローバル人材を育成するため、これまでのスーパーグローバルハイスクール事業の取組の実績等、グローバル人材育成に向けた教育資源を活用し、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組みの形成を目指す取組が始まっています！

WWL 採択機関一覧はこちら！▶

SGH校卒業生・高校生から見た スーパーグローバルハイスクール事業

Activities Report

- Record
- Message
- Discussion
- Future

文部科学省委託事業「スーパーグローバルハイスクール事業の成果検証」の成果として、
三菱リサーチ＆コンサルティング株式会社が受託し、作成したものです。

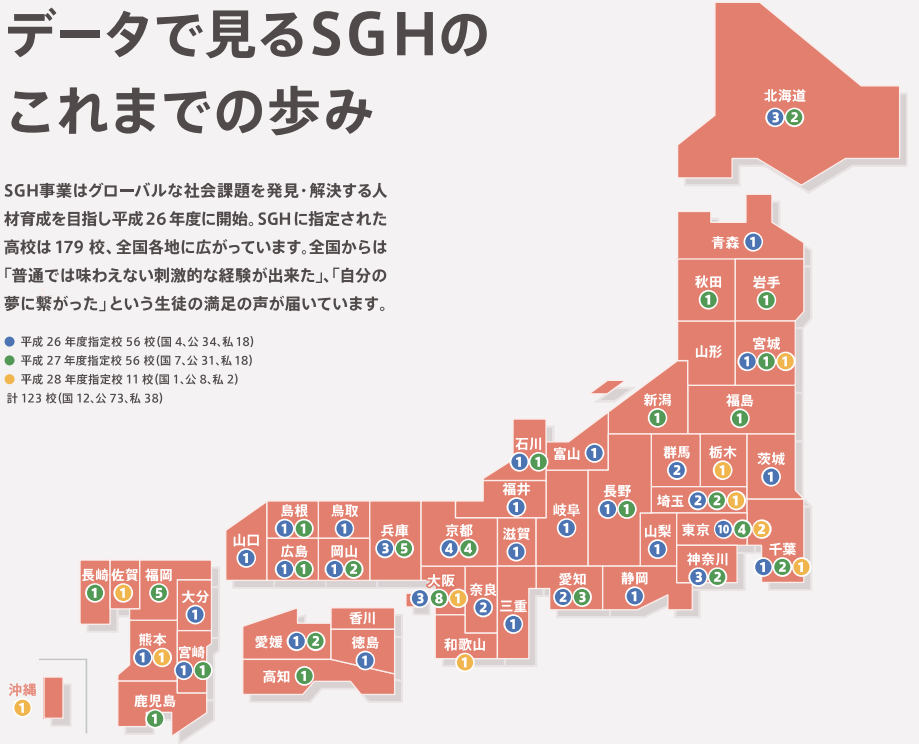
Record :

データで見るSGHのこれまでの歩み

SGH事業はグローバルな社会課題を発見・解決する人材育成を目指し平成26年度に開始。SGHに指定された高校は179校、全国各地に広がっています。全国からは「普通では味わえない刺激的な経験が出来た」、「自分の夢に繋がった」という生徒の満足の声が届いています。

- 平成26年度指定校56校(国4、公34、私18)
- 平成27年度指定校56校(国7、公31、私18)
- 平成28年度指定校11校(国1、公8、私2)

計123校(国12、公73、私38)



SGH指定校数

179校

SGH指定校123校はSGHアソシエイト校(SGH事業を踏まえたグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組む高校等)56校とともにSGHコミュニティを形成。

海外研修参加人数

10.878人

平成30年度時点で海外研修参加者数は10,878人に上る。(平成30年度事業検証報告〈以下H30調査と表記〉)なお、平成26年度時点では2,400人であり、上昇傾向に。

保護者の満足度

76%

SGHを受講した高校生の保護者のうち76%がSGHプログラムを満足だったとする。なお、国内連携機関の89%がグローバル人材育成有用性を評価。(H30調査より)

英語力

41.6%〉14.8%

SGH対象の高校生のうちCFERレベルのB1達成者の割合は41.6%で、SGH対象外の14.8%を大きく上回る。なおB1レベルの全国平均(平成29年度英語力調査結果)は3.7%。

海外進学人数

1.7人〉0.2人

SGH対象での海外大学進学者数の各指定校1校あたりの平均値は1.7人で、SGH対象外の0.2人を大きく上回る。

SGU進学人数

52.5人〉13人

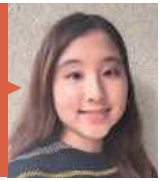
SGU(スーパーグローバルユニバーシティ)に進学する者の数の各指定校1校あたりの平均値は52.5人で、SGH対象外の13人を大きく上回る。

※文部科学省調査より(https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470_03_1.pdf)

Message :

SGHで学んだ生徒から後輩への応援メッセージ

高校で国際問題について考えることは、批判的思考力を養うだけでなく、これからの視野を大きく広げてくれます。英語をツールとして、研究だけでなくぜひ自らの進路もグローバルなスケールで考えてみてください!



海外研修で直に感じた問題意識から、海外大学へ

■ 高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか?

高校2年生の夏にスウェーデンでの短期研修に行ったことがターニングポイントだったと思います。社会福祉政策やジェンダーギャップへのアプローチが先進している福祉国家との出会いは、自身にとって大きなインパクトがあり、高校時代の一貫した探究テーマに繋がりました。また、研修を通じて海外にネットワークができたことも大きく、帰国後にスウェーデンの友人に追加調査をするなど、その後の探究活動で活かすことができました。海外の現状を直に確認できたことで、国内のスウェーデンに関する研究者にもさらに深くアプローチするなど、探究にアクセルがかかったように思います。

■ 高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか?

海外大学で授業を受けるに当たっての「常識を与えてくれた」のがSGHの授業です。日本のメディアではなかなか報道されない、多様な国際課題を授業テーマとして扱ってくださっていたので、SGH時代から自身の関心に近いことで、かつ、国際的な課題を身近に感じていました。こういった授業は大学の学びの準備に繋がったな、と感じます。また、大学ではエッセイの論理性も評価されており、SGHでの英語論文授業の経験が活きているように思います。

profile

山隈 恵里子さん(やまくま えりこ)

神戸市立葺合高等学校
2018年度卒

葺合高校の国際科の歴史やSGHの取組に惹かれ進学。SGHで国内の課題も日本だけでは解決できないとの問題意識から、社会学の先進であるカリフォルニア大学のバークレー校に進学。現在は社会学専攻に向けて勉強中。将来は海外でジャーナリストになりたいと考えている。

高校時代にも、何かに熱中するチャンスはたくさんあります。国際的な活動に限らず、関心のあることには積極的に取り組んでほしいです。そこで新たな経験ができ、それが大学時代や将来、必ず役に立つものとなります。挑戦しないと何も始まりません。応援しています!

自分から掴んでいく経験で培われる、積極性

■ 高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか?

フィリピンでの10日間のフィールドワークはかけがえのない時間でした。発展途上国の現状に関する写真を見てもどこか他人事ととらえていた私ですが、ストリートチルドレンやつぶれかけの屋台などの様子を、直接目にしたときの衝撃はとても大きかったです。これは、放っておいて良い問題ではなく、早急に解決すべき問題だと痛感しました。グループでの探究課題は、ゲーム依存解消のためのアプリケーション開発をしましたが、ゲーム依存は発展途上国でも起こりうる課題でもあります。この点もフィリピンの方とお話しする中で学んだことで、自身の先入観が覆った出来事です。SGHでは、自分の目・耳で事実を知ることの大切さを学びました。

■ 高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか?

SGHでの経験に裏打ちされたスキルへの自信から、より積極性が増したように思います。SGHでの活動を通じ、自分には人とは違う何かがあると思えるようになったからこそ、大学の授業でも、積極的にプレゼンテーションなどに挑戦しています。SGHによって「自分から掴んでいくこと」と「失敗して学ぶ」ことの大切さを経験できたことは自分にとっての財産になっています。まだ大学に入学したばかりですが、今後は関心の幅を広げながら、貧困へのアプローチが出来る進路に進めればと、考え始めています。

profile

篠崎 航介さん(しのざき こうすけ)

大阪府立三国丘高等学校
2019年度卒

先進国の成功事例をヒントに発展途上国への支援策を導くという本校のSGHのプログラムに魅力を感じ、三国丘高校に進学。支援策の検討に際しては金銭面の援助の必要性を痛感し、高校卒業後、経済学を学ぶべく大阪大学経済学部に進学。

「国際課題の解決」と聞くと、政治、金融、テクノロジーなど難しい言葉がたくさん思い浮かぶかもしれません。しかし、国際課題の解決とは、「同じ地球に住む困っている人を助けたい」という思いから始まるのではないかと思っています。だからこそ取り組む「課題」は何なのかという1番のゴールを決して見失う事なく、研究を頑張って欲しいです。

プレゼンスキルや度胸を強みに、海外大学で挑戦

■ 高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

高校 1 年生の時に受けた外部講師による講義が、海外への関心を高める大きなきっかけとなりました。国際機関で働く方の講義の中で、「日本という政治的に安定した国に暮らす者として、政情が不安定な国の人々を支えることは使命だと感じている」というお話がありました。それを聞き、自分自身の置かれた環境が恵まれていることに気がつくとともに、自分も世界のために貢献していきたいという思いが強くなりました。また、2 年生で参加したオーストラリア研修では、現地の大学生らと交流することで、海外に暮らす人々の存在がぐっと身近になりました。こうした経験を通じ、大学では海外に進学し、世界規模の視点で物事を考えていきたいと強く考えるようになりました。

■ 高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

SGH の活動を通じて習得したタイムマネジメントや英語でのプレゼンテーションスキルは、大学生活でも大いに役立っています。英語を話すことはもともと得意だったわけではないのですが、高校で英語による発表をする機会が非常に多く、試行錯誤しながら徐々に上達していきました。大学の授業でプレゼンテーションを行ったところ、聞き手を魅了し引き込む工夫ができていると評価され、自信につながりました。また経験値が上がったことで、多少のことでは動揺しない度胸も身についたと感じます。

profile

原田（はらた） 雄生（ゆうき）さん

秋田南高等学校
2018 年度卒

本校入学後に SGH のことを知り、海外での経験を積みたいと考えプログラムに参加。外部講師の講義や海外研修を通じ、大学でも世界規模の視点で学びを深めたいと考え、高校卒業後はアメリカのデポー大学に進学。歴史学や会計学など、様々な分野を学んでいる。

高校の時に SG コースに入ったことで、色々な経験ができ、これからも学びたいことや将来の夢が見つかりました。みなさんも好奇心を持って、失敗を恐れずにたくさんのチャレンジをしてみてください。きっとあなただけの発見や感動、そして夢がたくさん見つかると思います！

フィールドワークで仮説が崩れたことで、より深い学びへ

■ 高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

タイでのフィールドワークとロンドン大学での論文指導は、自分にとって非常に大きなものでした。タイの少数民族であるカレン族の言語が失われつつあることを知り、当初はグローバリズムのもとで英語に圧迫されていることが原因ではないかという仮説を持って現地を訪問しました。すると、実際にはカレン族の言語が英語ではなくタイ語に圧迫されているということがわかり、仮説は崩れたものの、そこからタイの少数民族に対する政策について、国際法の視点から研究をより深めていきました。さらにロンドン大学では、専門性の高い教員から指導を受けながら、多くの英語文献を調べ直し研究を深めました。大変でしたがリサーチ力は大きく向上しました。最終成果を SGH 全国高校生フォーラムで発表したところ、最優秀賞を獲得することができました。

■ 高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

大学では、学部の授業に加えて、国際法研究会というサークルに入り、模擬裁判などに取り組んでいます。活動の中で、英語によるリサーチや弁論をする機会があり、SGH での学びを活かせていると感じます。もともと国際法全般に関心がありましたが、サークルでの活動を通じて、人道支援の側面により関心をもつようになりました。将来は、海外大学院でさらに国際法を専門的に学んだ上で、国連職員など、国際問題に取り組める職業に就きたいと考えています。

profile

徳久（とくひさ） 愛華（あいか）さん

佼成学園女子中学高等学校
2018 年度卒

英語教育に力を入れていることに魅力を感じ、佼成学園女子中学高等学校へ進学。SGH の活動を通じて国際法に関心を持ち、高校卒業後は早稲田大学法学部に進学。今後は、海外の大学院に進学し、さらに国際法の学びを深めたいと考えている。

私は高校時代海外に足を運ぶ機会に恵まれましたが、「もっと日本のことを知っておくべきだった」と思った場面が多々ありました。地元で家族と過ごしながら学ぶ今の時間はきっとこれからの私たちの糧になると信じています。新しい時代を創っていく若い世代として、共に精進していきましょう。

留学を通じて自身のバックグラウンドを見つめ直す

■ 高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

オーストラリア留学で得た出会いが、大きな転機となりました。私の実家は代々工芸材料である金箔を販売しているのですが、留学先で仲良くなった友人が実家の会社のホームページを見て「伝統的なのは分かるけどあまりかっこよくない、あなたのセンスでもっとよく出来るはず」と言ってくれました。それまでは家業に無関心だったのですが、その言葉が私の使命感といい意味での焦りに火をつけてくれました。その時から金箔をはじめとする日本の伝統的な産業の真の魅力を生かす方法を模索し始め、ビジネスプランコンテストやインターンシップに参加する原動力となっています。今でも悩んだときに話を聞いて助言をくれる留学先で出会った人たちとの繋がりに感謝です。

■ 高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

留学はとても大変な経験ではありましたが、コンフォートゾーンから抜け出すことで視野が広がる喜びを知るとともに、自身のバックグラウンドやアイデンティティを見つめ直すきっかけとなりました。また、いろいろな人に出会い、多様な考え方を知る中で、性別や国籍といった表面的なことではなく、その人が本質的にどのような人なのか知ることの大切さに気づけたことも大きな成長だと感じます。大学ではリベラルアーツを学ぶことで、多角的な視点から物事の本質を見抜く力をさらに磨きたいと考えています。

profile

堀（ほり） 灯里（あかり）さん

立命館宇治中学校・高等学校
2018 年度卒

留学プログラムに魅力を感じて本校に進学。オーストラリア留学中自身の家業でもある日本の伝統的な工芸材料の価値と脆弱性に気づいた。高校卒業後は早稲田大学国際教養学部に進学し、伝統文化とビジネスの関係性を軸にリベラルアーツを学ぶ。

大きな問題に取り組んだ経験は目に見える形での成果、自分の変化や成長が分かりにくいかもしれませんが、いつか振り返った時その経験が自分の血肉になっていると必ず感じることでしょう。考えたこと感じたこと学んだこと全てを大切に頑張ってください。

専門家と住民がともに廃炉問題を考える機会の創出

■ 高校の学びの中で、自分を変えたきっかけは何ですか？

ドイツとニューヨークでの海外研修が、廃炉問題に対する自分の向き合い方を変える大きなきっかけとなりました。ドイツ研修では、住民が主体となって環境問題に向き合ってきた歴史を知り、ニューヨーク研修では、国連本部を訪問し、AI に関する議論を行う中で、科学にもとづく合理的判断だけでなく、一般の人々の意見や社会的妥当性を考慮しなければよりよい選択はできないということを学びました。こうした経験から、福島における廃炉問題を考える上でも、専門家だけでなく住民を巻き込んで議論していくことの必要性を痛感し、住民や専門家など多様なメンバーを集めたワークショップを開催しました。参加者からは、顔の見える関係で議論をすることができてよかったという感想をもらい、挑戦の手ごたえを感じました。

■ 高校での学びは、今の生活にどのようにつながっていますか？

中学生の頃から原発問題に技術者として関わりたいと考えており、それは今も変わっていません。しかし、高校の学びを通じて、科学的な専門知識だけでは不十分であり、専門家と住民が歩み寄り、一緒に考えていくことが必要だと強く感じるようになりました。そのため、現在は大学で物理学の基礎知識を学びながら、並行して廃炉後の地域社会をテーマとした研究会に参加するなどして、視野を広げるよう心がけています。

profile

遠藤（えんどう） 瞭（りょう）さん

福島県立ふたば未来学園高等学校
2019 年度卒

福島県大熊町の出身で、福島の復興に携わりたいと考え、本校に進学。SGH では主に原子力発電所の廃炉問題に取組み、住民を巻き込んだ合意形成の重要性を痛感。高校卒業後、新潟大学理学部物理学科に進学し、原子力物理を専門に学んでいる。

Discussion：

SGH校卒業生・高校生が考える「理想」のSGHプログラムとは？

2020年10月4日、SGH指定校を卒業した大学生7名、そしてまさに今 SGH 指定校で探究活動に励む高校生6名が議論を交わしました。議論のテーマは「後輩に届け！理想のプログラム～これからのグローバル人材育成のための課題探究プログラムの提案～」です。これまでのSGH に関する成果検証結果のデータや、自身の SGHでの経験など、持ちうるすべての情報を活用し、白熱した議論は5時間に及びました。

議論の末、まとめられた提案の内容はどれもSGHやこれからのグローバル教育を「もっと良くしたい」と強く思い、「自分には何ができるのか」を真剣に考えた結果だと言えます。答えのない時代に自ら問を立て、解決策にこぎつく議論となりました。

自身の SGH を振り返り「SGH の改善の視点」について自分の言葉で経験を語り、議論を重ねました。その結果、「①“自由”な探究活動にするためのテーマ設定」、「②強すぎる競争意識の改善」、「③より強いネットワーキングの構築」の 3 点を改善すべき論点として選び出しました。

Graphic Recorder

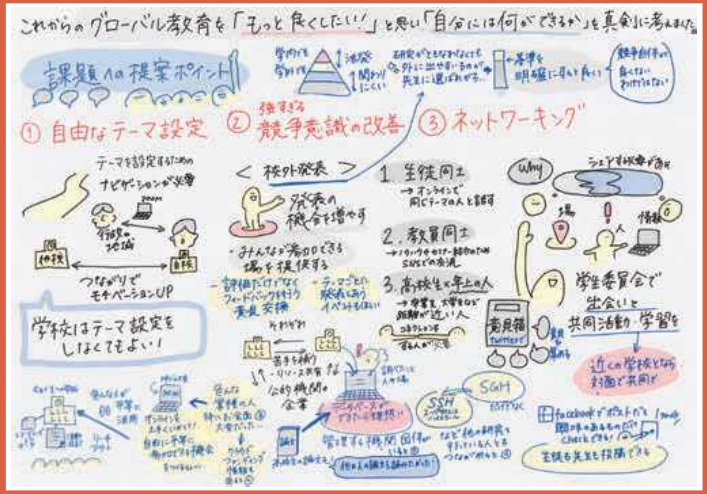
Comments

- 生徒の間の温度差があるかな。やる気のない人はどんどん離れていく。教員もサポートしたそうだが人数が足りていない様子。。
- 教員の熱量の差を感じることもあるのかな？
- 確かに、教員はずっと日本で過ごしているから「グローバル」と言ってもギャップがあるのかも。教員のスキルによっては、テーマを変えないといけないこともあるよね。テーマの枠内でそれっぽくしちゃう。
- SGH 校同士の交流がもっと増えれば、自分の高校のリソースで完結する必要がなくなるかも！？
- コンペが一概に悪いとは言わないけど、順位を付けたり賞を付けるものが多い気も。競争の弊害みたいなのがあるように思う。審査員へのアピールのために、時として重要度の低い課題を選んでしまう友人も多くいたし。なんか変にコンペティティブ。。
- それ、めちゃくちゃ共感するな。。ビジネス系のコンペに出るのが活動のひとつだったが、学校同士でも競争になっていた。結局争いになってしまっていて、社会問題解決の手助けのための提案をしようとしているのに、足元をすくわれているような気がした。

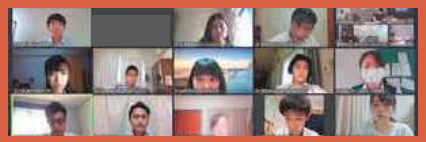
▼ グループワーク結果を全体に発表するためアイディアをまとめます。

3課題の解決策を次々に提案！①自由なテーマ設定：学校外の資源と繋がるためのデータベース構築やクラウドファンディング等、②競争意識の改善：研究テーマを深め合うためのフィードバックの機会等、③ネットワーキングの構築：生徒同士の繋がりのための学生委員会、SNS 意見箱等。

Graphic Recorder



Comments

- 生徒が情報を得る機会について、どう思う？
- データベースのようなものを作れるといいかも。自分の調べたい分野で SGH の他の高校が持つネットワークを一覧化したような「団体リスト」などが検索できたら、教員を通じた調整も減りそう！
- ネットワークの限界という意味では、うちの高校は政府や行政などとのネットワークがあって、それは良かった。けど、欲を言えば金融系などもっといろんな業種の人とのネットワークが欲しかったかな。
- 政府と生徒とのネットワークという話があったけど、他の人どう思うかな。
- 文科省など政府に生徒が提案するスキームとして学生委員会があるといいんじゃない？データベースの管理機関が、高校と企業の繋ぎなどをやってくれるとよりよさそうだよね！

▼ 学生自身がファシリテーターとなり、時間内で結論に導きました。